

幼児期の制作活動についての一考察

— 造形活動における児童文化財の活用について —

A Study of toddler production

若 山 哲

Tetsu Wakayama

キーワード：児童文化財 教育方法 幼児造形 図画
工作

1. はじめに

児童文化財とは、子どもの成長を支える様々な文化財を総称した概念で、豊かな情操・感性を育むために大切なものである。幼稚園教育要領ⁱにおいては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な姿として、「(1)健康な心と体 (2)自立心 (3)共同性 (4)道徳性・規範意識の芽生え (5)社会生活との関わり (6)思考力の芽生え (7)自然との関わり・生命尊重 (8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 (9)言葉による伝え合い (10)豊かな感性と表現」の10の項目をあげており、これらは5領域に示されるねらい及び内容に基づいて、幼稚園での活動全体を通して育んでいくわけだが、その際に幼児が様々な児童文化財に触れることは非常に有用であると考えている。

筆者は大学の教員養成課程に在籍する学生を対象に、幼児の造形活動や図画工作といった科目を担当しているが、指人形やパペット、ペープサートなどの児童文化財そのものの制作や、物語の場面をイメージした絵画制作、様々な登場人物のイラスト、物語で扱われる道具や衣装の制作など、児童文化財を活用して様々な制作が展開できることから、造形活動と児童文化財の親和性は非常に高いように感じている。造形活動・図画工作における児童文化財の活用について有馬(2022)ⁱⁱは木彫ギニョール人形を例に児童文化財を安易に購入、制作するのではなく時間をかけて丁寧に制作することが重要であるとしている。また関

根(2020)ⁱⁱⁱは保育者養成においてパネルシアターの制作、指導計画の立案と実践を行う事は、実際に子どもたちに伝えることをイメージすることで、造形に対する表現力だけでなく子どもに伝えるための内容や伝え方、立ち居振る舞い等、様々な学びに繋がるとしている。児童文化財の伝達については、花房(2021)^{iv}によると童謡や絵本を題材としたパネルシアターの制作、実践を行うことが、児童文化財に対する理解と保育スキルの向上に繋がるとしており、造形活動における児童文化財の活用については多様なアプローチがあるのがわかる。その他にも児童文化財の活用について島田(2023)^vは領域「言葉」の指導において児童文化財は「子どもの健全な成長を支えるすべての事象」であり保育者を目指す学生が学ぶべき内容であるとしている。物語やしりとり、なぞなぞなど様々な児童文化財を学ぶことは、児童文化財を媒介として「子どもの事も知るきっかけとなること」「面白さの本質に触れること」で、子どもの事を理解し、子どもへの共感的視点を養うこととしており、授業で演習を行う際には、実際の子どもの姿をイメージしながら児童文化財を読んだり演じたりすることが重要であるとしている。

これらのことを踏まえて、本研究では物語を題材とした制作活動の実践を行い、その内容について考察を進めていく。具体的には「物語の絵を作ろう」と「劇の衣装・小道具を作ろう」という2つの課題で実践を行い、完成作品について考察を行う。そのうえで、それぞれの実践についてアンケート調査を行い、テーマとしてどのような児童文化財を選択しているかと、学習主体がどのような意図で物語を選択しているかについて把握するとともに、実際に制作を行った際の意識

から、幼児期において触れた児童文化財が学習主体にどのような影響を与え、それぞれの制作活動に反映されているのかについて確認する。そのことから保育者、教員養成における造形指導において、児童文化財を活用する意義とその際の留意点について考察していきたい。

2. 制作作品について

課題の概要

課 題	概 要	制作材料	時間設定
物語の絵を作ろう	平面作品 (ちぎり絵で制作)	画用紙・折り紙・雑紙等	90分 × 3コマ
劇の衣装・小道具を作ろう	立体作品	紙粘土・厚紙・画用紙・割りばし・輪ゴム・ストロー等	90分 × 3コマ

*作品例についてはどちらの課題の作品も無作為に選んだものである。

課題：物語の絵を作ろうについて

自分の知っている昔話や絵本、児童文学から作品と場面を選択し、ちぎり絵での制作を行った。ちぎり絵

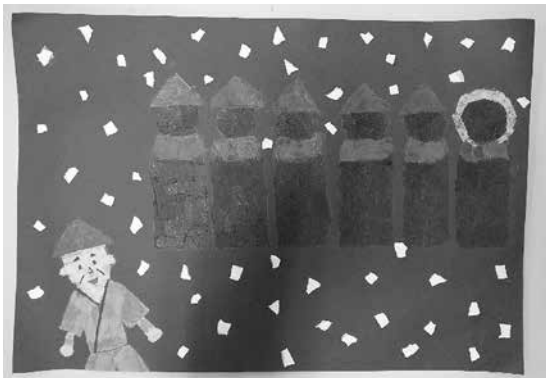
については補足の説明で、ちぎる大きさ・はさみで切ったものを貼る・別素材（お花紙やカラーセロファン等）の使用なども可であることを伝えている。

作品1は支持体に使用したグレーの画用紙のフラットな質感とちぎった画用紙による雪の表現が、「傘地蔵」という物語の素朴な雰囲気をも上品に表現している。作品2については黒い画用紙によるシルエットでの岩の表現と、お花紙を大きめに破ったものを重ねながら貼った水の表現のコントラストが奥行きを作り静謐な雰囲気を出している。作品3はお花紙のみでちぎり絵を行っており、貼り方もやや浮かせ気味にすることで、モチーフとした絵本のやさしい雰囲気の再現に成功している。作品4はちぎり絵らしいオーソドックスな表現だが、構図や粗密のバランスが良く力強い作品となっている。

作品全体の印象としてはそれぞれの作品に多様な工夫が見られ、表現内容に幅が感じられた。作品例に挙げた以外にも、モールやビーズ等様々な素材を顔料と使用したものや、支持体となる画用紙に切り込みや皺を入れるなど表現方法・内容ともに個性豊かな作品が出来上がったように感じた。

物語の絵を作ろう（作品例）

作品 1



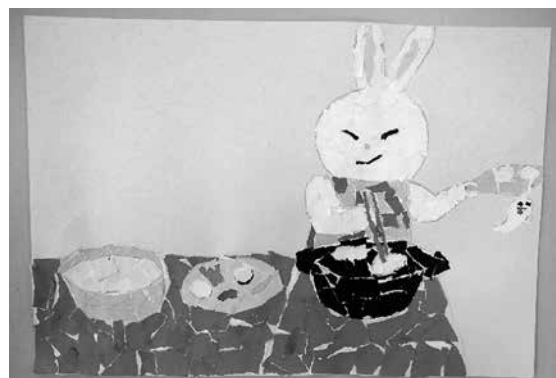
作品 2



作品 3



作品 4



課題：劇の衣装と小道具について

自分の知っている昔話や絵本、児童文学から作品を選択し、その物語を劇で行うために必要な小道具、衣装の制作を行った。制作物が多くなることが予想されたため共同での制作も認めており、ほとんどが共同での制作となった。

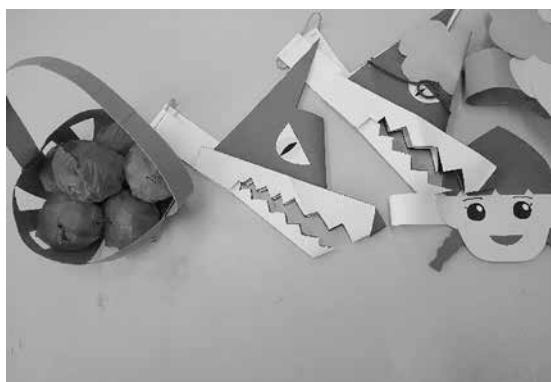
作品1は「赤ずきんちゃん」のための制作であるが、オオカミのお面について、通常時のお面とおばあさんに変装した時のお面に分けて制作するなど、制作者の中で実際に演じることを意識して制作しているのが読み取れる。作品2は「おおきなカブ」のための制作である。登場人物のお面に加えてそれぞれの衣装やカブなど意欲的に制作しているが、衣装にカラービニール

袋を使用したことでやや華美な印象になってしまっている。作品3も「おおきなカブ」のための制作だが、こちらはペープサートとして制作しており、保育者が演じる、または少人数でのごっこ遊びをすることを想定しているとのことだった。小さく扱いやすいこともあり丁寧に制作されている。作品4は「不思議の国のアリス」での小道具と衣装であるが、衣装は実際に着れる大きさのものを作る前の試作品として制作している。細かな工夫をしながら丁寧に制作されている。

作品全体の印象としては、意欲的に作られているがどの作品も予想の範疇に表現がとどまっており、個々の表現や制作する小道具の種類等について、もう少し工夫があると良いように感じた。

劇の衣装と小道具（作品例）

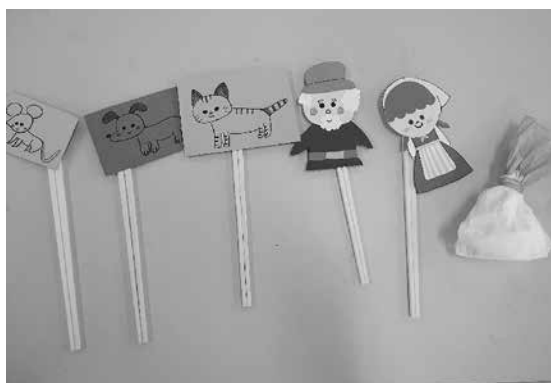
作品 1



作品 2



作品 3



作品 4



3. 物語の選択理由と制作時の意識調査について

調査の概要と方法

以下の方法で、造形課題に対する意識と時間設定に

ついて調査を実施し分析を行った。

調査方法：配布による質問紙調査による実態調査

調査対象：本学1年生 『図画工作』履修学生を対象にアンケート調査を実施した。配布数は61で有効回答数は59であった（回収率96%）。無回答の項目も

分析対象とした。

調査時期：2024年5月第12週

調査項目：1年次前期『図画工作』において行った2つの制作活動の実践について、選択したモチーフ（物語と内容）と制作の際にどのように感じていたかについて質問紙を作成して調査を行った。

質問項目

質問1	課題「物語の絵を作ろう」において選択した物語と制作した場面について記述
質問2	質問1の物語・場面を選んだ理由について記述
質問3	課題「劇の衣装・小道具を作ろう」において選択した物語と制作した衣装・小道具について記述
質問4	質問3の物語、制作物を選択した理由について記述
質問5	それぞれの課題について制作時の意欲について下記より選択 意欲的に取り組めた やや意欲的に取り組めた あまりやる気がでなかった やる気が出なかった
質問6	それぞれの課題について制作のアイデアについて下記より選択 イメージしやすかった ある程度イメージしやすかった ややイメージしにくかった イメージしにくかった
質問7	それぞれの課題について制作しやすさについて下記より選択 制作しやすかった ある程度制作しやすかった やや制作するのが難しかった 制作するのが難しかった
質問8	それぞれの課題について作品の満足度について下記より選択 満足している ある程度満足している あまり満足していない 満足していない

4. 結果と考察

1) 質問1～質問4 物語・制作内容の選択理由について

質問1～質問4ではそれぞれの課題におけるモチーフ（物語・制作内容）の選択について、記述式で質問した。回答された内容について分類すると以下のようにまとめられた。複数の理由があったものについてはそれぞれカウントしている。

「物語の絵を作ろう」では「好きな物語だから」「制作しやすいと感じたから」「有名・子どもが知っているから」「場面やキャラクターが好きだから」「絵やデザインが素敵だから」「物語とちぎり絵の表現があっていると感じたから」の6つに分類された。この課題では「場面やキャラクターが印象的・好きだから」という理由が一番多く、特に場面が好きである又は印象に残っているからの回答が多くあった。これについては絵画表現を行う際に、好きな場面であることや場面の印象が明確にある事が、制作意欲や制作しやすさに直結するためだと考える。次いで多い順に「好きな物語だから」「制作しやすいと感じたから」「物語とちぎり絵の表現があっていると感じたから」となっており「有名・子どもが知っているから」や「絵やデザインが素敵だから」というのが少数意見として挙げられている。

「劇の衣装・小道具を作ろう」については、「好きな物語だから」「制作しやすいと感じたから」「有名・子どもが知っているから」「場面やキャラクターが好きだから」「絵やデザインが素敵だから」「話が分かりやすい 劇がやり易いと感じたから」「劇でやるイメージがある 子どもの時演じたから」の7つに分類された。「制作しやすいと感じたから」という回答が最も多く、次いで多いのが「有名・子どもが知っているから」という回答となっている。

それぞれの課題で共通する理由として「好きな物語だから」「制作しやすいと感じたから」「有名・子どもが知っているから」「場面やキャラクターが印象的・好きだから」「絵やデザインが素敵だから」が挙げられており、課題特有の理由としては、物語の絵を作ろうでは「物語とちぎり絵の表現があっていると感じたから」という理由が挙げられており、劇の衣装・小道具を作ろうでは「劇でやるイメージがある 子どもの頃演じたから」と「話がわかりやすい 劇がやり易いと感じたから」の2つが挙げられた。

選択した理由を比較してみると、「物語の絵を作ろう」では場面やキャラクターが印象的だから」「好きな物語だから」といった学習主体の感性を理由とした選択が多いのに対して、劇の衣装小道具を作ろうでは「制作しやすいと感じたから」が突出して多く、これは物語や制作物の選択の場面で制作の難易度をでき

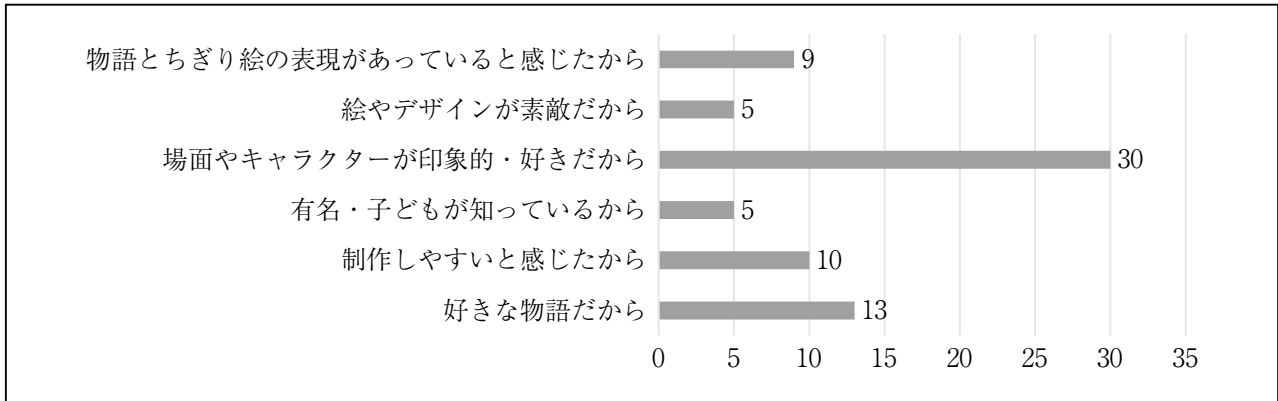


図1. 物語の絵を作ろう 物語・場面を選択した理由

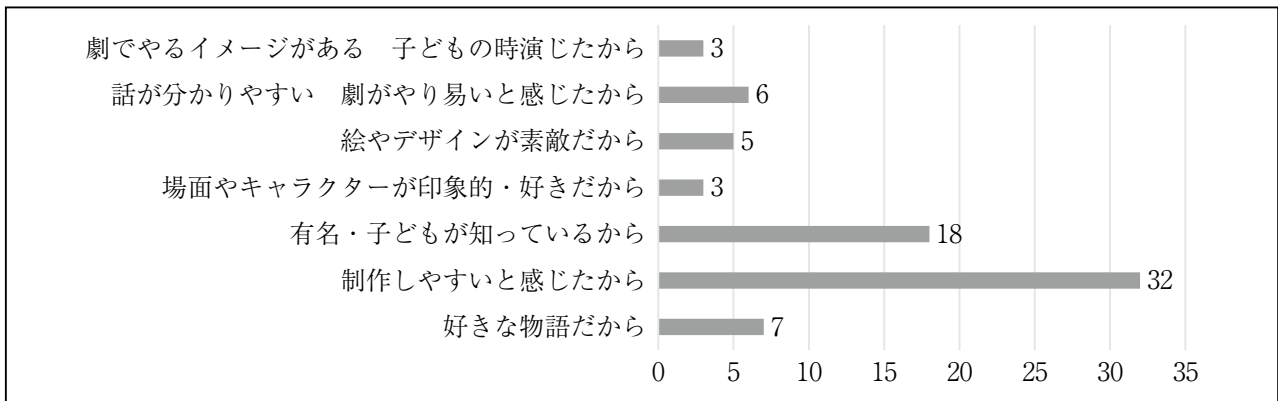


図2. 劇の衣装・小道具を作ろう 物語・制作物を選択した理由

るだけ下げたいという意識の表れだと感じる。

またそれぞれの課題独自の分類についても特徴が出ており、「物語の絵を作ろう」では「物語とちぎり絵の表現があっていると感じたから」というような、これから制作する作品そのもののイメージに関する理由が挙げられたのに対して、「劇の衣装・小道具を作ろう」では「有名・子どもが知っているから」や「劇でやるイメージがある 子どもの頃演じたから」、「話が分かりやすい 劇がやり易いと感じたから」など、実際に子どもと演じることや子どもと一緒に制作することをイメージしたうえで、物語や制作物の選択を行っていることがわかる。この意識の違いについてはどちらが良い悪いという事はないが、制作する課題によって物語の選択理由が変わってくることを指導者として理解しておく必要がある。

2) 質問5～質問8 制作時の意識について

質問5～質問8については制作時の意識（制作時の意欲、アイデア、制作の難易度、作品の満足度）につ

いて選択式で質問を行い、それぞれの結果は以下の図のようになった。

質問5の制作時の意欲については図3、図4の結果となった。「物語の絵を作ろう」では「意欲的に取り組めた」91%、「やや意欲的に取り組めた」9%となった。「劇の衣装・小道具を作ろう」では「あまりやる気が出なかった」問う回答が3%あったが「意欲的に取り組めた」85%、「やや意欲的に取り組めた」12%となっており、どちらの課題も学習主体が意欲的に課題に取り組めたことがわかる。

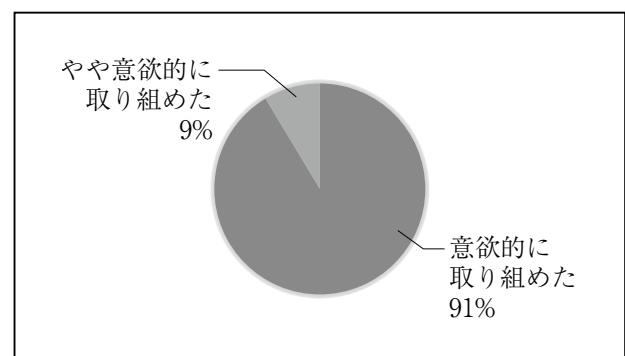


図3. 物語の絵を作ろう 制作意欲

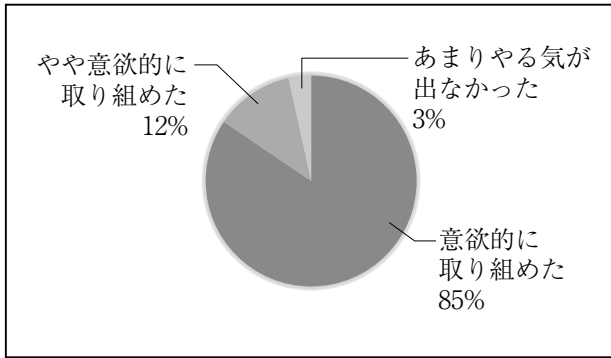


図4. 劇の衣装・小道具 制作意欲

質問6の制作のアイデアについては図5、図6の結果となった。「物語の絵を作ろう」では「イメージしやすかった」76%、「ある程度イメージしやすかった」24%となっており、「劇の衣装・小道具を作ろう」の課題では「イメージしやすかった」76%「ある程度イメージしやすかった」19%、「ややイメージしにくかった」5%となっており、「物語の絵を作ろう」の課題に比べて若干ではあるがイメージしにくかったことがわかる。

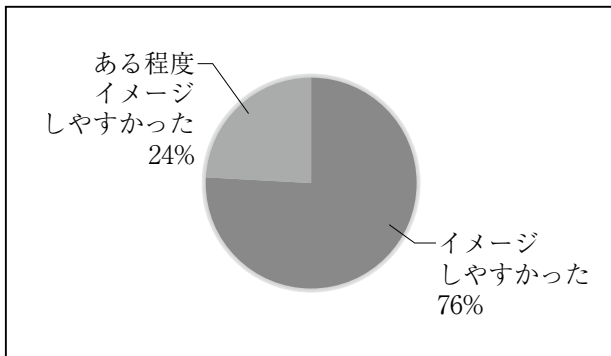


図5. 物語の絵を作ろう アイデア

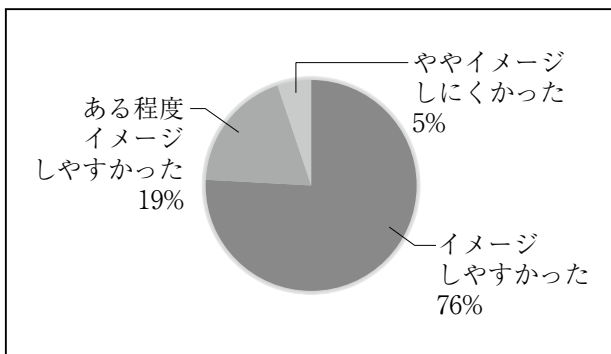


図6. 劇の衣装・小道具 アイデア

質問7の制作の難易度については図7、図8の結果となった。「物語の絵を作ろう」では「制作しやすかった」64%、「ある程度制作しやすかった」21%、「やや制作するのが難しかった」10%、「制作するのが難しかった」5%となっている。「劇の衣装・小道具を作ろう」では「制作しやすかった」57%、「ある程度制作しやすかった」31%、「やや制作するのが難しかった」10%、「制作するのが難しかった」2%となった。

制作するのが難しかった」10%、「制作するのが難しかった」5%となっている。「劇の衣装・小道具を作ろう」では「制作しやすかった」57%、「ある程度制作しやすかった」31%、「やや制作するのが難しかった」10%、「制作するのが難しかった」2%となった。

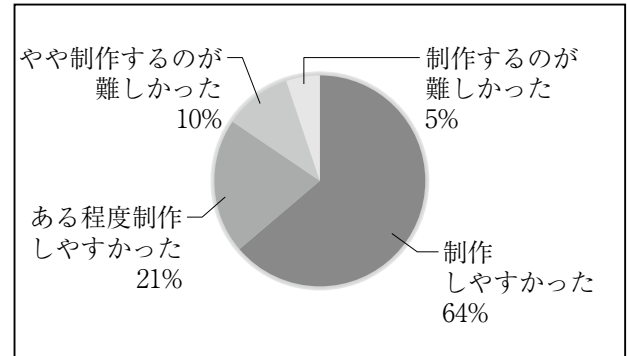


図7. 物語の絵を作ろう 難易度

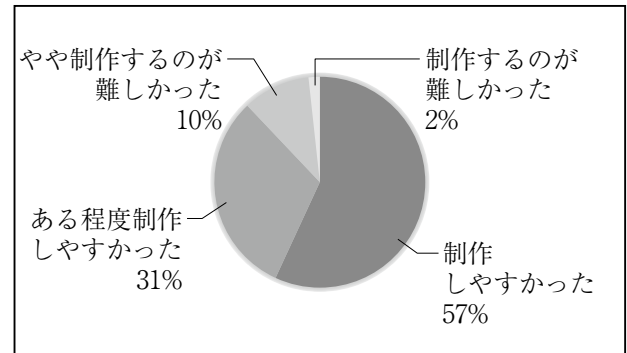


図8. 劇の衣装・小道具 難易度

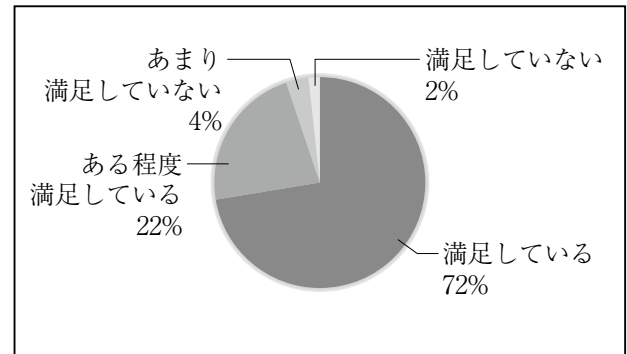


図9. 物語の絵を作ろう 満足度

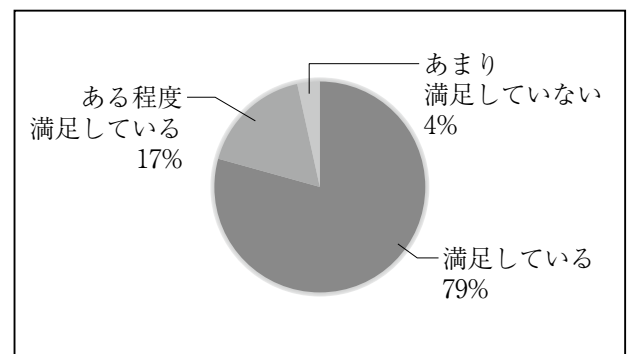


図10. 劇の衣装・小道具 満足度

質問8の作品の満足度については図9、図10の結果となった。「物語の絵を作ろう」では「満足している」72%、「ある程度満足している」22%、「あまり満足していない」4%、「満足していない」2%となっており、「劇の衣装・小道具を作ろう」では「満足している」79%、「ある程度満足している」17%、「あまり満足していない」4%となった。

質問5～質問8の結果からは、今回の2つの課題が非常に取り組みやすい課題であったことが伺える。単純比較はできないが、以前筆者が行ったアンケート調査(2023)^{vi}と比較してみても、アイデア、難易度、満足度それぞれで、今回のアンケート結果のほうが肯定的な回答を多く得ており、そのことから今回研究対象とした2つの課題「物語の絵を作ろう」「劇の衣装・小道具を作ろう」は学習主体にとって取り組みやすい課題であったことが伺える。

5. まとめ

本研究では、児童文化財をテーマとした2つの制作活動「物語の絵を作ろう」「劇の衣装・小道具を作ろう」において、学習主体がどのように物語を選択するかについてと、その制作内容、制作時の意識について確認を行った。

物語の選択について「物語の絵を作ろう」では学習主体の感性が大きく反映されていたのに対して「劇の衣装・小道具を作ろう」では、実際に劇を行う事を想定して物語を選択しており、課題によってモチーフ選択に違いがあることがわかる。

制作中の様子については、どちらの課題も意欲的に

取り組んでいるように感じられたが、制作された作品について見てみると、「物語の絵を作ろう」の課題のほうが表現方法や素材・内容の工夫など発想豊かな作品が多かったのに対し、「劇の衣装・小道具を作ろう」の方が、やや小さくまとまった作品となったように感じる。これは「劇の衣装・小道具を作ろう」の課題において、実際に保育教育現場で実践することを学習主体が意識したことによると思われる。実際に子ども達と実践する事をイメージすることは決して悪い事ではないが、それによって、使いやすさや作り易さ、わかりやすさなどを優先することで、作品としてはややおとなしい表現となったと考える。保育・教育現場での実践を想起させるような課題を行う際には、このことに留意して制作態度が委縮したり、表現の幅を狭めることがないようにしたい。

制作時の意識についてアンケートの結果からは、どちらの課題も非常に取り組みやすい課題だったことが伺えた。特に「制作時の意欲」と「制作のアイデア」の2つについては非常に肯定的な回答を得ており、絵本や童話などの児童文化財を扱う課題が学習主体にとって身近で取り組みやすい課題であることが分かる。

保育者・教員養成における造形指導では制作活動に対して苦手意識のある学生が一定数おり、それらの学生が主体的に取り組める課題設定は重要である。今回の調査結果から、制作活動における児童文化財の活用は、保育技術の向上や具体的に保育活動をイメージすることに加えて、主体的に制作に取り組むのに有用な課題であると考ええる。

ⁱ 幼稚園教育要領：文部科学省，平成29年年3月，pp.8

ⁱⁱ 有馬知江美：白鳳大学教育学部論集，第16巻第1号2022年10月 pp.279～293

ⁱⁱⁱ 関根久美：川口短大紀要，第33巻2019年12月 pp.93～100

^{iv} 花房ナオミ：梅花大学心理子ども学部紀要，11号2021年3月 pp. 22～31

^v 島田知和：活水論文集，66号，2023年3月 pp. 143～150

^{vi} 若山哲：福岡女学院大学紀要人間関係学部 第25号 2024年3月 pp. 87～92